

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4092100058		
法人名	株式会社 嘉麻の杜		
事業所名	グループホーム 嘉麻の杜		
所在地	福岡県嘉麻市下山田715番地13		
自己評価作成日	平成24年9月26日	評価結果確定日	平成24年11月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成24年10月15日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当グループホームは緑豊かな自然に囲まれており、ゆったりとアットホームな雰囲気の中で生活を営む事ができます。協力医療機関と連携を取り、医療・介護の視点で見守る事ができ、利用者に合わせたケアを行っています。年間行事も多彩で隣接しているグループホームやデイサービスと合同で夏祭りや敬老会、クリスマス会や餅つき等の行事を行っており、入居者やご家族の皆様に喜んで頂いています。また、文化の日には嘉麻の杜文化祭を行い、利用所の皆様の作品を展示し、御家族を招待してお茶会を兼ねての意見交流会で親睦を図っております。その様子をケーブルテレビで放映してもらい、地元の方へもアピールできたと思います。開設1年を過ぎたばかりのグループホームですが、今後も利用者やご家族、地域の方に信頼され愛される施設を目指していきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホーム嘉麻の杜は、隣接する系列の介護サービスと合同で地域と交流しながら、安心して暮らせる「我が家」としての機能を果たせる場と支援提供を理念にしている。計画的な花見や希望のお寺参り等の外出支援、入居者の要望で居室に自宅の単筍を運ぶなどの丁寧な関わりで、運営推進会議には家族の半数が参加し、外出支援の謝辞や食事に関する率直な意見が出されている。訪問診療や訪問看護と連携しながら、脱水症の緊急入居を引き受けたり、家族と話し合いを重ねて今回緩和ケア棟へ入院した入居者もある。さらに理念を実践するために、職員に研修会の参加を推奨し、介護の質を高めることを目指している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/事業所名 **グループホーム 嘉麻の杜**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	プライベート空間の確保については居室には勝手に入らない、入浴はお一人ずつ入って頂く事などである程度は実践できている。地域の方から信頼される事以前に、地域の方へのアピールが出来ていない。	玄関の目につきやすい場所に理念が掲示されている。毎月開催しているミーティングは全職員が参加し、我が家としての理念に添った支援について話し合い、日々の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の敬老祭に呼んで頂けた利用者もいたが、声がかかったのが数日前であり、スタッフ等の都合がつかず参加を断念した。ご近所の方で面会に来て頂ける方はいらっしゃるが日常的な交流とまではいっていない。	自治会には加入していないが、敬老会や民謡発表会に家族と参加している。入居者が利用していたデイサービスの夏まつり等で地域の方との交流もあり、今後も地域の催し等の情報を得て、交流の機会を増やす予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来られたご近所の方とお話する事はあるが、事業所として積極的に地域の方へ向けた活動等はしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では行事や避難訓練等の報告を行っており、必ず質疑応答の時間を設けている。今までもご家族から貴重な意見を頂いた事があり、その都度サービス向上に向け努力している。	運営推進会議実施要綱を整備し、市高齢者福祉課、入居者家族、民生委員、運営者や職員等の参加で2カ月毎に開催している。居室の温・湿度計の設置や入浴用品の変更など、家族の意見を活かしている。5月から参加の民生委員より、「職員の言葉かけに感激した」との感想があった。	地区住民代表に運営推進会議の主旨をご理解いただき、参加のお願いをさせていただき、参加のお願いをさせていただきます。地域情報をいただいたり、ホームのアピールや火災訓練の参加等の協力をお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	判断に迷う事があればすぐに相談させて頂いており、その都度的確な回答を頂いている。親切な対応に助けられており、高齢者福祉への貢献について感謝の言葉も頂いている。	毎月開催されている嘉麻市ケアマネジャー連絡会に参加し、情報交換や行方不明者探索「安心・安全SOSケアネット」で協同している。地域包括支援センターと入居情報を交換したり、介護保険課とは日常の運営について細かな事でも相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	嘉麻市より資料を頂き勉強し、身体拘束ゼロを実践している。玄関の施錠については、すぐ前が崖や公道という事もあり、利用者様の状況等に合わせ出来る限りの対応を取らせて頂いている。	整備している身体拘束に関するマニュアルを活用し、日常的に話し合いをしている。ベットからの移動時に転倒の恐れがある場合は、見守りの徹底や床にマット敷くなど工夫している。また、ホームが交通量の多い県道に面しており、玄関は施錠しているが、入居者の外出したいという想いを汲み、散歩や草取りなど戸外に出る対応している。	運営推進会議で「安心・安全SOSケアネット」の活用を提案されてはいかがでしょうか。緊急時に備え、入居者の写真の掲載等の相談を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持っていないが、職員の倫理意識により虐待が見過ごされるような事はなく、ミーティング等でも言葉遣い等について話し合いを持ったりと、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年の7月に入居された方が、日常生活自立支援事業を活用され1人暮らしをされていた。今は支援が必要な方はいない為、今後、支援が必要かもしれない時は関係者に相談し、活用していきたい。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解している。金銭管理の依頼を受けた入居者の歳出記録は、毎月家族に提示している。介護相談員の訪問を活用しているが、来訪が不定期なため、今後はより連携を深め、情報交換に努める予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の前には契約やグループホームについての話をさせて頂く為の時間を頂き、理解しやすいように具体的に説明等行っている。不安や疑問等尋ね、何かあれば、いつでも尋ねて頂けるよう声掛けを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは外出レクや食事についていつも意見を頂いており、御家族からは面会に来られた時や運営推進委員会等にて意見や希望、お叱り等、頂いており、その都度、解決するよう努めている。	入居者の希望で、ドライブを兼ねた観光や外食を毎月実施している。家族からは、「家族では同伴できない所に連れて言ってもらえる」と感謝の言葉がある。また、手作りの餃子をとの要望に応じたり、他の入居者が手伝う事への苦情などもあるが、双方に配慮しながら対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでも職員の意見を求めているが、通常の業務に関しても意見や提案によって運営が助けられており、職員の意見は反映されている	管理者は、ミーティングの時や日常業務の中で職員の意見を聞く機会を多く設けている。職員の提案で、投薬やベット移乗は安全に配慮して2人体制にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう勉強会等に参加する費用は会社にて負担してもらっている。サービス残業もあるが、職員皆やりがいを持って働いている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女共に20歳から60代までの方が働いており、それぞれの得意分野で活躍してもらったり、助け合いもできており、働きやすい職場になっている。	ハローワークや情報誌、同業者からの紹介で採用している。資格ではなく、お年寄りが好きであることを要件にしている。雇用契約を取り交わし、公休や有休もとれ、育児休暇の職員もいる。研修参加交通費を補填している。絵の好きな職員には特技を發揮できる役割の提供で、職員のやりがいになっている。男女の職員からなり、年齢も幅広くお互いを尊重し合っている。介護福祉士資格取得を目指す職員もいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	折りに触れ管理者より言葉遣いや利用者への対応についての指導はある。	毎日の申し送りや毎月のミーティングで、人権についてとりあげている。高齢者虐待防止に関するマニュアルを整備している。管理者がフォローアップ研修を受講しており、人権研修内容を基に職員に研修予定である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内等あれば、順次受けていくようすすめており、内部研修にて個々のスタッフのレベルアップに努めているが、スタッフの人数的に難しい部分もある。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	隣のGHとは年に何回か合同の催し物をしており、毎月のケアマネ連絡会にても嘉麻市内の他GHとの交流を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される時には不安を感じる事が少なくなるように、何かあれば声を掛けて頂けるように、笑顔でこまめに声掛けを行い信頼関係が構築できるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限り家族の方に時間を作って頂いて話を聞かせて頂く時間を設けており、困りごとや悩みを解決できるように努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一度入居の相談があった方でも、もう少し在宅で頑張ってみますとのお返事を頂いた事もあり、相談を受けた段階での状況に応じた対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の中には準職員だねと自ら話される方もいらっしゃり、能力のある方には協力して頂ける関係を築けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日のように面会に来られる家族もおり、ある程度の協力はして頂いているが、御家族によってはGHというものをあまり理解して頂いていない方もおり、時間をかけて少しずつ関係構築をしているところである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行政区の敬老会に参加するなどできる範囲では支援しているが、まだ十分ではない面もある。近所の方が面会に来てくれることはあり、利用者の方は喜ばれているので、お顔を見せにだけ来て下さいと声掛けしている。	家族と一緒に温泉旅行をしたり、お盆や正月と一緒に過したり、馴染みの美容院行きなどを継続している。お寺詣りに同伴し、数年ぶりに近所の方に来て喜ばれた入居者もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活であり、力関係等様々あり、難聴の方はどうしても会話に入れず、職員との意思疎通も難しくなっているが、何とか利用者皆さん仲良く過ごしてもらえている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も入院先に見舞いに行ったり、入院中の洗濯ものの支援をしたり、入院先からの施設探しを援助したりと、必要に応じて出来る限りの援助を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少なくともケアプランの更新時には本人の希望や意向を尋ね、職員全員で更新月のミーティングにて検討している。	アセスメントシートには、出身地・職歴・趣味・特技などが記載され、日々の関わりの中で情報を得ている。日々はつきりと要望される入居者もあり、ポスターを共同で作製するなど能力を発揮できるよう支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人、入居前に利用されていたデイケア等から情報の提供に協力して頂き、本人の生活史を把握するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌には毎日時間毎の記録をし、毎日朝・夕の申し送りにて現状の把握をし、隔週で訪看と訪診に観てもらい、健康面のチェックもできている。少なくともケアプラン更新月にはアセスメントもとりなしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を聞き、ミーティングや検討者会議にて職員で話し合い、訪看や訪診からの意見があれば反映し、聞ける家族には意見を尋ね、介護計画を作成している。	介護計画は3カ月毎に介護計画作成担当者がモニタリングし、ミーティングで話し合いや見直しをしている。担当職員から、日常生活の中でできにくくなった事への介護改善やADL維持のため提案がある。計画は担当者会議で入居者や家族に報告し、了承してもらっている。	具体的なサービスについては、担当者を中心に職員でモニタリングを行うことで、入居者へのより細かなサービス提供や職員の協同の実践を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアや気づき、受診結果等、職員全員で把握しておくべきことは連絡帳に記載し、申し送りでも伝え周知できるようにしており、ケアプランの見直しにも反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	聾啞の利用者が入居されていた為、職員が手話講座を受講したり、耳の聞こえないK.P.の為に、手話通訳の方にも話し合いに同席して頂いたり等行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会には民生委員にも出席して頂いたり、お盆には毎年参拝しているお寺に参りに行ったり、嘉麻の杜文化祭を行って、ケーブルテレビにて放映してもらったり、近くの美容室に散髪に行ったり等の支援をしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携にて日赤病院より、訪問診療・訪問看護に隔週で来て頂き、緊急時の対応も確保できており、家族や利用者には安心してもらえている。	月2回訪問診療、訪問看護を受け、常勤の看護職員が健康状態を報告し連携を取っている。眼科は3カ月毎に、歯科は必要時に訪問診療を受けている。専門医の受診は家族と看護職員が同行している。受診結果は看護記録へ記入し、家族へは電話等で報告している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は気づいた事があれば管理者や看護師等に報告・相談し、看護師より訪看や訪診時に報告・相談し、適切な対応ができています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日赤病院には訪問診療、訪問看護に来てもらい、何かあればすぐに対応してもらえるよう常に日頃から連携を取っている。また、利用者が他の病院に入院された時も退院や今後についての話を伺ったり、話し合いの場をつくってもらったりしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	胸写にて肺癌疑いのあった方では訪診時やDrからの検査の説明にも家族に同席してもらい、その都度家族に話し合ってもらい、意向確認を行った。今後予測される症状や今後の対応についても十分に話し合いを持ち、8/27に緩和ケア棟に入院された	「重度化対応、終末期ケア対応指針」が整備され、入居時に本人や家族にホームでの看取りは難しいことを説明し、了解を得ている。今回緩和ケア棟への入院では、家族との話し合いを重ね、訪問診療や訪問看護と連携した支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生について講習を受け、その講習を受けていない職員にはAEDの置き場所や使用方法を伝えている。また、一人一人の病状の対応については訪看や看護師の方からその都度指導を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定での火災訓練は毎月行い、隣接しているGHとの合同訓練も行っており、火災発生の職員緊急呼び出し練習も実施している。	毎月、火災を想定した避難訓練を実施している。入居者にも避難の必要性が理解されてきた。夜間を想定して職員の連絡網も活用し、実施した。AEDを備え、AEDの使用法や救急蘇生の演習をしている。	年1回は地域消防署の協力を得て、避難訓練、消防訓練の助言を受けられることをお勧めします。また、救急蘇生法やAEDがいつでも実践できるよう、定期的に研修をお願いします。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名字で呼ぶ事、丁寧な言葉遣いをする事、居室には勝手に入らない事、入浴は1人ずつ入ってもらう事などの基本的な事を守るようにし、一人一人の個性を大切に、失礼のないように気を配っている。	認知力を保持している入居者も多く、個性を重視し、職員は「ああそうね」とまず受け入れの言葉から会話を続けている。居室が分からなくなった入居者には、戸惑わないように気遣いのある対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほとんどの利用者は思いや希望を職員に伝えており、できない方では職員が本人の思いを推察したり、家族に尋ねたりし、思いをくみ取れるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きてすぐには食事を食べたくないという時には、その方だけ食事時間を少し遅らせたり、夜食の希望がある方には小さいおにぎりを渡したり、本人の希望にはできる範囲で対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日に何度も着かえられる方もいらっしゃる、また選べない方に対しては、いつも同じ服ではないように着かえを準備したり、家族共に希望のある方は髪染を職員が行ったりしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については皆さん意思表示がはっきりしており、食の細かい方はおられず、細かいところまでの指摘がある為、職員はそれに応じて提供している。支障のない程度にコップの片付けやテーブル拭き等、一緒に行ってもらっている。	食事への関心が高く、職員が毎週の献立を考えているが、入居者の反応が献立改良の目安になっている。一名の職員が伴食している。普通食が大半だが、ほぐしたり、皿の引きよせ等さりげない食事介助がなされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が週替わりで考えて立て、季節に応じた食材を使うようにしている。食事や水分摂取量はその都度チェックし、一日のトータル量も出し、その人に応じた水分量を促す等の支援もしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けや、セッティング等を行い、歯磨きを促しており、できない方には可能な限り介助も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗が増えてきた方には時間毎のトイレ誘導を行っていき、排泄パターンをつかむように支援し、失敗を減らせるように努力している。	数分毎の排尿の訴えや排尿・排便の場所が不適切な入居者もあり、排泄パターンを一覧表にして支援している。トイレも広く、明るく、利用者仕様で整備されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には食物繊維を摂取するよう声掛けを行ったり、水分摂取を促したり、おやつにもヨーグルトや寒天ゼリー等を提供するよう努め、個々に合わせて支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	順番を決めずに行っていたら、私はこの前も後ろの方だった、最初に入った事がない等の苦情多い為、入浴順番表を作成し、利用者さんにも誰の次は誰と解かり易くした。皆さん順番を心待ちにされている。	週3回、入居者の希望を入れた入浴順番表で入浴している。菖蒲湯、柚子湯等で季節を感じてもらっている。恐怖心からか浴槽に一人で入れない入居者には、職員と一緒に浴槽に足入れする等の工夫をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間や居室の温度・湿度調整など個々の利用者に応じて支援している。昼食後のお昼寝の習慣がある方には自室で静かに快適な時間を過ごせるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療や受診等での薬の変更等あった時や症状の変化があった時は、連絡ノートに記載し、申し送りでも口頭にて伝達し、周知徹底を図っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の好みや楽しみを伺い、それに応じたレクリエーションをできる範囲で行っている。また、外食や花見などの外出レクにて気分転換の支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や外食を好まれる方が多く、体の負担も考え、月に1度ほど実施している。近くのお店に衣類を買いに行ったり、近所の美容室に散髪に出かけたりと家族の協力も仰ぎながらできる範囲で支援している。	玄関に一年間の行事予定と実施した行事を表示している。気候の良い時には月2回、車に分乗してドライブを兼ねて外出し、入居者の楽しみになっている。車椅子利用者が多く、運営者や夜勤明けの職員も参加して総出で外出している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て自分で管理される方もいるが、管理が困難な方は預からせて頂き、外出時の買い物の際にできる限り自分で払えるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等へ電話を希望される場合はできる限り対応している。手紙のやり取りができる方は便せん、封筒、切手の準備や宛名書きなど必要な支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ドアの開閉音、食器の音等にも気を配り、温湿計と加湿機能もある空気清浄器を全居室とリビングに設置し温度、湿度調節にも気を配り、季節の花を飾ったり等、利用者の希望を伺いながら心地よく過ごせる生活空間作りに努めている。	オープンキッチンがある居間は三方に窓があり、明るく広々としている。芝生の庭を通してデイケアの様子も垣間見られ、入居者の希望で日常の音にも配慮しながら、居心地の良い空間となっている。居室へ続く廊下には天窓があり、壁には入居者の笑顔一杯の写真が掲示されている。トイレ、洗面所や浴室は、空調や防臭に配慮した暮ししやすい環境づくりが見られる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファーや玄関前の椅子等にて1人で過ごされたり、気の合う方同士でゆっくりと話されたり、リビングで何人かでTVを見られたりと、個々の利用者の方が思い思いに過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと馴染みの家具や装飾品等を持って来てもらったり、1人暮らしたた方では本人と話し、今まで使っていたタンスを職員で運んで来たりし、本人らしさを出し、心地よく過ごせるように支援している。	居室には花の名前が表示され、小さめの名札を掛けている。広い窓のある居室は、リクライニングベット、空気清浄機が設置されている。仏壇や使い慣れたタンス、ソファなどが置かれ、入居者の手づくりの人形や工作が飾られたり、誕生会の似顔絵が入居者の目の高さに飾られたりしている。本人と家族の想いが詰まった個性的な暖かい感じの部屋づくりがなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	GH内はバリアフリーになっており、リビングや廊下、トイレやお風呂には手摺をつけたり、トイレには便所の張り紙をしたり等の工夫もしている。		